

第3回 青山俳壇 受賞作品発表

題字 堀田宣彌理事長

テーマ「青の句」

第3回青山俳壇の受賞作品が次のとおり決定いたしました。受賞者の皆様、おめでとうございます。幼稚園から大学院生までの在校生、校友、教職員、保護者、学院関係者そして今回青山学院系属校の横浜英和学院生、浦和ルーテル学院生など、総勢2737名の方々よりご応募いただきました。たくさんのご応募、誠にありがとうございました。

創立150周年記念大賞

夏の雨青きインクの母の文

大学経済学部教授 ■ 佐竹 由帆

「青」を詠むと考えた時なぜか真つ先に浮かんだのは、校友であるベギー葉山さんの「学生時代」の歌詞に出てくるインクでした。万年筆で書かれた母の筆跡と結びつき、句で表したい情景がすぐに浮かび、そのまま言葉にしました。大賞、誠に光栄に存じます。

講評
權 未知子

メール等ではなく、自筆の手紙を送ってくれた「母」。万年筆を使われたのでしょうか、「青きインク」に清涼感があり、今年の題にぴったりの内容となりました。

最優秀賞

青い空うきわをもってかげおくり

初等部2年 ■ 大島 すず

今年の夏、家ぞくでプールに行きました。そこで、弟のけいしとお母さんと、はじめてのかげおくりをしました。かおしか見えなくて、なんどもやって大へんだったけれど、楽しかったので、はいくにしました。

選者
權 未知子

「かげおくり」は自分の影が空にうつて見えるという遊びです。「青」という題を、この古風な遊びによってうまく生かした作品といえましょう。

へアピンに青いほう石夏休み

初等部4年 ■ 桑原 麻衣

この夏、友達とアクセサリー作りに行きました。毎日暑いけれど、すずしくなりたいと思ったので、選んだへアピンには青いほう石をつけました。とても気に入ったので、毎日つけて楽しんだことが、わたしの夏の思い出です。

選者
片山 由美子

青い宝石はもちろんガラスの玉でしょう。でも、作者にとつてはダイヤモンドより価値があるのです。夏休みにどこかで買ったのかも知れません。すてきなへアピンが目につかびます。

ハンモック紺青の空に星ゆれる

中等部2年 ■ 池上 奏

私がフィリピンでハンモックから空を見上げている情景を詠みました。ゆれるハンモックから見ると、まるで空がゆれているように見えます。私が見た空の色に近づけるためにたくさん青色を調べ作りしました。このような賞をくださりありがとうございました。

選者
大屋 多詠子

キャンプでしうか、紺青色の夜空に美しい星が瞬いているのをハンモックに揺られながら仰いでいるのですが、星の方が揺れている様に見えた、と上手にまとめました。

釣り上げる青いヨーヨー夏祭り

中等部3年 ■ 杉山 大悟

友人達と夏祭りに行った際の思い出を俳句にしました。友人達との思い出を素直に詠んだこの句がこんな賞をもらえてとてもうれしく思います。この賞をいただいたことよって日常の光景に別の視点を持つ大切さを知りました。

選者
林 謙二

詠まれている光景がはつきりと思い浮かぶのは「青いヨーヨー」という具体的な物があるからこそ。「青」を十分に生かした句です。ヨーヨーを見事に釣り上げた少年、カッコいいですね。

最優秀賞

台風が青空置いて去っていく

横浜英和小学校6年 ■萩原 有珠

今年の夏はいくつもの台風が発生して雨の多い夏休みでした。楽しみにしていたデイズニールランドも雨でした。始業式当日、前日まで降っていた雨が止み、自宅の吹き抜けの窓から太陽の光がキラキラと差し込み青空が見え気持ち晴れ晴れとして思い付いた俳句です。

選者

片山 由美子

台風の夜が明けると、一転して真つ青な空が広がることよくあり、「台風一過の青」と言ったりします。それを青空を置いていったとらえたのがよかったですと思います。

あおかち

青褐に染まらぬ白さ星月夜

横浜英和中学校1年 ■榎本 紗也

私はこの夏家族と山梨へ行きました。月明かりのない暗い夜に空を見上げると、青く濃く染まった夜空に負けないほど白く、明るく無数の星が輝いていました。それがとても綺麗だったので、その感動を俳句にしました。あの時の景色は今でも鮮明に覚えています。

選者

大屋 多詠子

「青褐」は濃紺色を指す古い言葉です。深い夜の空に星が白く美しく輝いている、それを「染まらぬ白さ」と表現しました。ゴッホの画『星月夜』を想起しました。

たぎ

挑戦の決意が滾る青嵐

横浜英和中学校3年 ■吉田 悠莉

私には、何度挑戦しても弾くことができなかったギターソロがありました。一時は断念しかけた時もありましたが、今一度、己を奮い立たせて挑もうとするこの心情を青嵐に例えてこの句を詠みました。この度は、このような素晴らしい賞をいただき光栄です。

選者

林 謙二

「青嵐」とは青葉茂る頃に吹く、やや強い風のこと。困難に立ち向かう決意で「青嵐」に向かっていく強い気持ちを隠すことなく表現しているところに感じる若さ。うらやましいですね。

新涼やカタコトと行く青梅線

校友 ■日吉 怜子

立川に住んで半世紀以上、ある日弟が上京してきたので、青梅を案内したその時の線路の響きが、何やら哀愁を帯びているように感じた。地殻変動で土砂が山を越えてきた多摩の横山と言われている傾斜のある地域である。丁度谷間にある渋谷の街並みを思い出した。

選者

林 謙二

小さい頃、青梅線に乗って御岳山によく行きました。自然豊かな車窓。線路は単線。東京都とはおよそ思えないところに、秋の到来を告げる涼しさがある。気分のいい小旅行が始まります。

理事長賞

園庭のシオカラトンボ光る青

幼稚園保護者 ■池田 真梨也

選者 堀田 宣彌

猛暑の夏、庭を眺めていると元気に飛ぶトンボがいる。青色に光って見えるが、良く見るとシオカラトンボです。シオカラトンボは平和や調和の象徴であり、シオカラトンボがあなただの前に現れたら、心の平穏を取り戻し人間関係を省みるタイミングかもしれません。

院長賞

青馬に乗りて駆け行く夏の甲斐

中等部2年 ■三井 祐里奈

選者 山本 与志春

夏空の下、白馬に乗って緑の甲斐路を駆けて行く美しい情景。短い言葉の連続から風を切って走る軽やかなリズムと爽快感、作者の晴れやかな心も伝わってきます。

初等部長賞

ゆめにみた青いあさがおまきゆめに

初等部1年 ■新井 いろは

選者 小澤 淳一

あさがおが咲くのを「夢にまで見」てしまうほど待ちわびている気持ちがよくわかります。花を見つけたときは、どんなにうれしかったことでしょう。次の花を探したくなりますね。

初等部長賞

町の中しげみにひそむ青大将

初等部4年 ■ 花田 慧

選者 小澤 淳一

「しげみにひそむ青大将」、この部分がまるでその場にいるかのように感じさせます。もしかしたら、青大将と目が合つてドキッとしたのでしょうか。町中にも自然が隠れているのですね。

中等部長賞

洞窟に透き通る青初潜り

中等部1年 ■ 山中 峯 継

選者 上野 亮

以前生徒と修学旅行で行った沖縄の青の洞窟。最初は所詮本場イタリアの二番煎じだろうと思つていたものの、行くと本当に美しく感動したことを思い出させる作品でした。

ミズクラゲ青い世界にただ揺れる

中等部3年 ■ 山田 梨紗子

選者 上野 亮

水中を漂うミズクラゲ。鮮やかな青を背景にした水槽で、ふわふわと白く半透明の姿で自由に漂う姿を見ていると、時間の経つのも忘れ、見入つてしまい癒やされますね。

高等部長賞

応募数が基準に満たなかったため、今年度の賞の設置はなし。

大学長賞

青切符帰郷の途次に蝉しぐれ

大学院理工学研究科後期課程 ■ 貞光 謙一郎

選者 稲積 宏誠

俳句のことはよくわかりませんが、今は亡き父母のこと、また学生時代に実家に帰る道すがらのことを思い出させてくれました。ありがとうございます。

校友会長賞

青田波磐梯山を浮き立たす

校友 ■ 菊池 恵子

選者 関根 茂

この句を読んだ時に頭の中に暑い夏の日に目の前に広がる雄大な山の景色が鮮やかに浮かんできました。

浦和ルーテル学院小学校長賞

ひまわりが見上げているよ青い空

浦和ルーテル学院小学校5年 ■ 堀切 柚佳

選者 福島 宏政

突き抜けるような青い空を見上げると、隣ではひまわりが同じように青空を見上げているのでしょうか。空の青とひまわりのくっきりとした黄色の対照が印象的な、元気な句です。

浦和ルーテル学院中学校長賞

シリウスが青く輝く夏の宵

浦和ルーテル学院中学校3年 ■ 中込 和一斗

選者 福島 宏政

暑い夏の宵に、涼しげな青白い星が輝いています。「冬の夜」ではなく、「夏の宵」にこそシリウスは清涼に青く強く輝くのだという作者の思いが伝わってきます。

横浜英和小学校長賞

青い海ならべてひかるラムネびん

横浜英和小学校6年 ■ 白石 さくら

選者 中村 貞雄

家族で出かけたのでしょうか。きれいな青い海と波の音、ガラガラ輝く太陽と反射するラムネのびん、そして冷えたラムネの味。楽しい夏休みの一ページが目には浮かびます。

横浜英和中学校長賞

石段をのぼりきる背に青嵐

横浜英和中学校2年 ■ 林美佑

選者 小久保 光世

毎朝、横浜英和の生徒は156段の階段を上って登校します。階段の途中からは、富士山が見えます。若々しい青葉の上を吹き渡る風が、1日のスタートを後押ししてくれているようです。

横浜英和高等学校長賞

青信号陽炎の中渡り行く

横浜英和高等学校1年 ■ 沼倉 由奈

選者 小久保 光世

天気の良い穏やかなある春の日、青信号へ変わった瞬間に陽炎の立つ横断歩道を渡っていくこうとする。そこには何かを成し遂げたい、前向きに進んでいきたいという未来に向けた思いが想像できます。

優秀賞

なつのあさ青あおとしたくさがある

初等部2年 ■ 小林 航太郎

大しづき青いプールにとんだぼく

初等部3年 ■ 坪井 太槻

夏の空青くかがやくアルタイル

初等部4年 ■ 清岡 真央

あさがおがさいたよ何色青むらさき

初等部5年 ■ 永川 凜駆

夏休み見上げた先に青い鳥

初等部6年 ■ マッキンタイア 溪蘭

青空にドローンと競う赤とんぼ

中等部1年 ■ 加賀山 侑志

口笛で吹きし「ふるさと」青田風

校友 ■ 谷口 桂子

龍舌蘭^{そび}聳ゆる空や青深し

中等部教諭 ■ 藤富 史花

青星や時空を超えて爛々と

学院関係者 ■ 中村 和徳

体育祭青空の下がんばった

浦和ルーテル学院小学校5年 ■ 金田 康聖

夏の海青の音楽波の歌

浦和ルーテル学院小学校5年 ■ 登山 結菜

青空に高く掲げるサイダー瓶

浦和ルーテル学院中学校2年 ■ 伊藤 陽亮

青葉揺れ風も味方にゴール割る

浦和ルーテル学院中学校2年 ■ 堀内 星那

青い鳥幸せな春連れてくる

浦和ルーテル学院中学校3年 ■ 澤口 育実

総評

第3回の「青山俳壇」は青山学院創立一五〇周年を記念し、系属校の横浜英和中小中高、浦和ルーテル学院中小高でも募集しました。その結果、たくさん応募があったことを喜んでいました。さて、俳句の基本は有季定型です。「青山俳壇」ではそれに従い、季語のない句は選外としています。季語である言葉が入っているかどうかを歳時記や辞書で調べてみましょう。また、定型も大切です。字余りの場合、五・七・五のリズムが感じられるかどうか、声に出して確かめる必要があります。今回の題は「青の句」でしたが、「青空」「青い海」「青春」などが目立ちました。誰もが思いつきそうな言葉です。それに合わせる季語しだいということはありませんが、自分が発見したもの、あるいは想像力を駆使して得られたイメージなど、個性を活かした俳句にできるとよかったですと思います。

林 謙二

選者

片山 由美子

公益社団法人俳人協会副会長、毎日俳壇選者、香雨「創刊」主宰、2013年俳人協会賞受賞。

榎 未知子

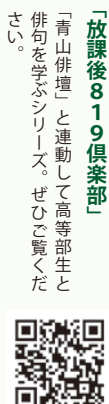
公益社団法人俳人協会理事、同人誌「群青」共同代表、2018年俳人協会賞受賞、校友。

大屋 多詠子

大学文学部日本文学科教授、父は俳人の大屋連治、俳句結社「天為」所属。

林 謙二

中等部国語科教諭、俳人協会教職員のための俳句指導講座委員、俳句結社「葦」所属。



「放課後819倶楽部」
「青山俳壇」と連動して高等部生と俳句を学ぶシリーズ。ぜひご覧ください。

朝つゆがきらきら光る青空で

横浜英和小学校4年 ■ 西田 瑚七海

汗ひかりラケット握る青き空

横浜英和中学校1年 ■ 山田 凜乃

夕立の後の青空散歩道

横浜英和中学校3年 ■ 高橋 志織

プリントを飛ばしてしまった青嵐

横浜英和中学校3年 ■ 村田 和香奈

青嵐スカートふわりと舞い躍る

横浜英和高等学校1年 ■ 杉山 真未

雨の中きらきら光る青蛙

横浜英和高等学校1年 ■ 塚本 さくら